

## 新科学館におけるプラネタリウムに関するサウンディング型市場調査 の対話結果の公表について

### 1. サウンディング実施の経緯

本市では、現在の児童文化科学館の老朽化が著しいことから、東田地区に移転新設することとしています。最有力候補地は、スペースワールド跡地の東田二丁目交差点近傍地であり、イオンモール（株）が開発する跡地全体の施設の一画を占めることから、集客力が高いと考えています。

プラネタリウムは天文教育に活用するほか、イオンモール（株）による夜間・休日等の集客効果を踏まえた商業的な活用も見込めることから、プラネタリウムの運営や設備の提案などについて、民間事業者から有用な意見やアイデアを募集したため、その結果を公表いたします。

### 2. サウンディングの実施スケジュール

令和元年9月17日～10月4日	サウンディング実施要領の配布
令和元年9月17日～9月27日	質問の受付及び対応
令和元年10月8日～10月17日	サウンディングの実施

### 3. サウンディングの参加者

4事業者 ※うち1社は、デジタルプラネタリウムの専門事業者

#### 4. サウンディング結果の概要

プラネタリウム投影機器
<p><b>提案①</b></p> <p>【光学式】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・一般恒星数 16,000～27,000 個の投映し、自然で美しい星空を再現</li><li>・高精細な星雲・星団、奥行きのある天の川を表現</li></ul> <p>【デジタル式】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・8K 相当の高解像度・高臨場感映像を投映</li><li>・星の動き、月の満ち欠けなど学習投映での使用や、太陽系・銀河系を巡る旅など、様々なシミュレーションにより、リアルタイムに宇宙の疑似体験</li></ul>
<p><b>提案②</b></p> <p>【光学式】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・観測に基づいた恒星データにより、本物の星空と同様の品質で投映可</li><li>・肉眼で見える星空を再現した約 9,500 個を投映する主恒星と本物の天の川を再現した 1 億個の微恒星の集団で再現した天の川を主恒星とは別々に投映可</li></ul> <p>【デジタル式】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・番組の自主製作の労力や配給作品のコストを踏まえ、4K の高解像度での投映</li><li>・天体の動きや天文現象の正確なシミュレーションが可視化できるため、理解力の向上に効果がある</li></ul>
<p><b>提案③</b></p> <p>【光学式】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・人類が観測に成功している 10 億個以上の恒星を投映（世界最多の恒星数）</li></ul> <p>【デジタル式】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・10K の高解像度の映像を投影</li><li>・地上の風景と星が重なることなく、自然な投映可</li></ul>
<p><b>提案④</b></p> <p>【デジタル式】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・月から見上げた地球や、太陽系フライト、恒星間飛行から、宇宙の果てまで、現在分かっているこの宇宙のほとんどすべてを投映可</li><li>・光学式では投映できなかった宇宙からの視点で、天体の動きを捉える</li></ul>

設備（ドーム径・座席配置等）	
ドーム径	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光学式機器メーカー3社から直径30mで提案有</li> <li>＊30mは西日本最大で、話題性が期待できる (例：愛媛県30m、宮崎市27m)</li> <li>＊30mを超えると特注品になり、コストが上がる</li> </ul>
形状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水平型（2社）</li> <li>＊実際に星空を見上げたイメージを再現</li> <li>・傾斜型（1社）</li> <li>＊傾斜をつけることでエンターテインメント性の高い映像番組に対応</li> </ul>
座席配置	<p>3社とも</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・扇形 ＊多目的な利用可</li> <li>・前方には特別シートを設置</li> <li>・前方にステージを配置</li> </ul>
床勾配	<p>3社とも</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前方から後方にかけて緩やかな傾斜をつける</li> <li>＊後方席の番組の見やすさ、バリアフリーを考慮</li> </ul>
座席数	<p>3社とも</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約250～300席</li> <li>＊天文学習利用での収容人数やゆとりを持った座席配置を反映</li> </ul>
運営等	
運営手法	<p>3社とも</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平日の昼間は学習投映を実施</li> <li>・平日の夜間・土日祝日は、幅広い世代の方に楽しんでいただけるような、エンターテインメントの要素も取り入れた番組を投映</li> <li>・イオンモールの営業時間に合わせた運営（例 9:30～21:00）</li> </ul>
教育普及活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な操作により、プラネタリウムの番組を自主制作</li> <li>＊中高生が部活動等で利用</li> </ul>

## 5. サウンディング結果を踏まえた今後の方針

今後、サウンディング結果を踏まえて、公募条件の整理・検討を進めます。